

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第 87 号 (令和 8 年 5 月 発行)

令和 8 年は、3 月に第 1 回定例会が開催され、一般質問で各議員が下記のとおり管理組合執行部の見解を質しました。

主な質問・答弁要旨

辻裕登議員



主な質問項目
・ 石原地区の整備について

- 四日市港に限らず、どこの港でも企業のニーズはあるが、土地がない状態だと推測する。四日市港は特に石原地区が、今熱いところではあるが、設備投資、企業進出や増設を含めて、企業から問い合わせなどはあるか。
- 四日市港は地形的な特徴として、河川から流入する体積土砂の定期的な維持浚渫が必要で、石原地区は、維持浚渫土砂の受け入れ場所として、四日市港唯一の海面処分用地である。H5年度の土砂投入開始から概ね 30 年が経過した。近年、コンビナート企業や商社から石原地区の土地利用についての問い合わせが多くなってきた。今回改訂した「四日市港港湾計画」の検討段階で、石原地区の土地利用についてのニーズ把握のため、あらためて企業ヒアリングを行ったところ、四日市港内における新たな事業を展開する用地が不足しており、特に脱炭素化に資する新たな事業計画を検討する上でも事業用地を確保したいのご意見があった。そのため石原地区の土地利用区分を海面処分用地から工業用地に変更し、今後もヒアリングを重ねながら企業の事業計画にできる限り寄り添えるよう対応していきたい。特に「脱炭素」にこだわっているわけではなく、せっかくできた土地を使いたいというご希望があれば、使っていただいたらよいと考えている。
- 石原地区は一体いつになったらできるのか、整備目標とする時期は示せないのか。
- 石原地区は、そもそも浚渫土砂を入れる海面処分用地であり、結果として土地ができる。水分の多い浚渫土砂で、水が抜けると高さが下がり、いつまでに完成というのは難しい。早く土地が欲しいという要望が出てくるのであれば、少しずつ供用開始していくことは可能であるので考えていきたい。
- 部分竣工もできないのだろうと思っていたので、前向きな回答をいただいたと思う。しっかりとニーズを確認し、時期も合わせて、さらに四日市港の発展に資するものにしていただきたい。

伊藤雅慶議員



主な質問項目
・ 四日市港のさらなる活性化にむけて
にぎわいのある四日市港

- クルーズ船の誘客と地域観光の連携・促進について、クルーズ船の歓迎イベントについては、乗客だけでなく多くの人が集い楽しめるよう、ぜひ充実を図っていただきたい。
- クルーズ船誘致にあたっては、四日市港客船誘致協議会を中心に、船会社や旅行代理店への営業活動はもとより、受入時のおもてなしや寄港地の魅力発信に取り組んでいる。クルーズ船が着岸したふ頭内において和太鼓演奏などの歓迎イベントや新たな四日市のお土産ブランド「泗水十貨店」の認定商品や地場商品の販売を行っている。
- 四日市地区のにぎわいづくりについて、今後の企画や展開方針について聞きたい。併せて親水空間における芸術、文化、イベント等を生かした港の観光コンテンツ化の提案について聞きたい。
- 「四日市地区らしさ」を最大限に生かしながら他地区にはない魅力を創り出していくことが持続的なにぎわいを生み出していく上で重要と考えている。現在進めているにぎわい拠点「野積場を含む千歳運河周辺」整備においては、重要文化財である末広橋梁をランドマークとし、夜間のライトアップや景観に配慮した周辺整備を行い、この地区ならではの歴史的景観の魅力をさらに高めていきたい。また、今年度の「BAURA ミーティング」では、昼間のイベントに加え、民間視点を取り入れ夜間のイベントとして「BAURA の夜市」を初めて開催し、新たな文化誕生の可能性が感じられた。ハード面だけでなく、イベント等のソフト面の取組も併せて進めることで新たな魅力を創り出していくことが重要だと考えている。観光コンテンツ化と成り得る取組についても、四日市みなとまちづくり協議会での民間事業者を中心としたワーキンググループの意見を尊重しながら取組を進めていきたい。
- 「みなと緑地 PPP」の導入も含め、親水空間の環境整備として今後の取組み方針を聞きたい。
- 四日市地区のみなとまちづくりの中で、「みなと緑地 PPP(港湾環境整備計画)」についての活用の可能性も含めて様々な視点から今後研究していきたいと考えている。